

上越のmatterホルンの異名を持つ鋭鋒 大源太山(1598m)

実施日 2023年6月1日(金)
 天候 晴れ(やや風強し)
 リーダー 宮崎 敏男
 参加者 宮崎 敏男 計1名
 費用 ①(越後湯沢⇄旭原) 780円
 JR(越後湯沢⇒立川) 4,697円
 計5,477円
 タイム 越後湯沢駅(7:10 ①)旭原BS(7:40)林道終点登山口(8:30)分岐(8:50)大源太山(12:00~13:20・昼食)分岐(15:10)林道終点~登山口(15:30)旭原BS(16:20~50 ①)越後湯沢(17:15)

平票山の疲れを越後湯沢の温泉で癒し、今日は待望の大源太山だ。



晴天だが風はやや強い。バスは旭原到着、大源太山の雄姿が迎えてくれる。ここからの景観はなかなかのものだ。

ソロ登山なので自分流の山旅を…と新緑、山桜、溪流の音、pipxcela夏空を楽しみながら登山口までの一本道を歩行で向かう。

登山口には車が3台、杉木立の中の静かな登山道を進む。最初の渡渉、飛び石で渡る。石が苔っぽい！

分岐は真直ぐ直進。右は謙信ゆかりの道シシゴヤの頭方面。

北沢の渡渉、やや大きな石から石へジャンプ！ザックを背負って私が飛べる程度。

だが水量豊かな急流はプレッシャー。

雨後・雪解け時は無理、引き返すしかない。

(下山の翌日は大雨、線状降水帯頻発。ここはひどい事なっただろう)

沢沿いの道を離れるとそこから登山路は急登に次ぐ急登(帰路はこのトラロープに大助かり)



所々樹林が切れ大源太山が、かいま見える。

朝から気になる風具合、高度が上がるつれ強まり枝葉は大きくしなり谷を越え渡ってくる風音は凄まじい。この先、



痩せ尾根は、岩稜地帯は、頂上直下の岩場はどうなっているの

うか。

場合によっては撤退も…1人歩きは思案がめぐる。

尾根に出て源太山も良く見えるようになった。

灌木の道からはい松の道へ、この間も何度かの急登を繰り返して源太山へ近づく。

岩稜のハイ松地帯で外人と若者のパーティが下山してきた。

『こちらから頂上までは行けるがその先は今日は無理』



で引き返してきたと。

さらにその先の岩稜ハイ松地帯で若い夫婦が風をよけて昼食中「頂上は強風ですぐ降りて来た、今日来た人は皆ピストンだヨ」

これは何とか頂上を踏めそうだ！



直下の岩場はザレていたり一枚岩だったり気が抜けない。が！頂上は急にやって

きた。田中陽希の「ヤッター」が出そうになった。登頂できて良かった。

追いかけて230609-4で山頂に来た若者「周回予定だけこの先雲行きも風も悪化しそう」皆、引き返したと教えると自分もそうしますと。

お昼食べました？ "イヤ下降りてから" 風弱まったみたいですね "食べるか！"ええ

南魚沼の非番消防士の若者との山頂交流は、山頂を踏めたことで緊張がとけたか時を忘れて1時間20分。

楽しいひと時。持っていた余裕時間を使い切りあとは下山のみ。

注意は怠らず、ナイス・マイ・ペースでコースタイム通りの下山であった。

が最後の渡渉、先を急いだか苔むす岩に足を滑らせ"ドボン"

最終バスには30分余裕をもって無事下山。

ソロ登山の楽しさと対応力が試さ



れるイイ山だった。

さあ江神温泉で汗を流し新幹線でビールを飲んで帰ろう。

今年の5月が終わり早や6月、いよいよ夏山の陣も目前体調を仕上げいい夏迎えよう！

追記 今回風と足もとに注意を要したので、高山草花への言及少なかったがカメラは

A 巻機山をバックに断崖に咲くシャクナゲ



B 岩稜の足もとに可憐に咲くアカモノ



C イワカガミの群生



D 名知らずながら満開の赤花樹木等々をとらえていました。

(記&写真・宮崎 敏男)



雪山になると更に似てくる？